

## 未来は地域で変えられる。

宗像市立日の里中学校 2年 青山 夏々

土砂災害の被害にあったことはあるだろうか。私の住む町、日の里は土砂災害警戒区域が少なくはない。毎年、梅雨時期になると、避難指示が発令されたり、土砂災害警戒レベルが3以上の危険な状態になったりする。大雨による土砂災害から地域と命を守るためにはどのような対策をするとよいのだろうか。

私はまず、自分の住んでいる場所はどのような災害の危険があるのかを知ることが大切だと思う。スマートフォンやパソコンで自分の住んでいる場所の危険をハザードマップで確認すると良いと思う。そうすることで、実際に災害が起こった際に、適切な行動をとることができると思うからだ。また、自分の家の近くの避難所を知っておくことで、土砂災害時に限らず、様々な災害のときに避難することも出来る。しかし、この対策には二つのデメリットがある。一つ目は、スマートフォンやパソコンを持っていない高齢者についてだ。宗像市役所に「宗像市防災マップ」というパンフレットがあるが、希望者しか手に入れることができない。つまり、足の不自由な高齢者の方の手に行き渡ることは難しい。二つ目は土砂災害の危険があり、避難指示が出たとき、身体の不自由な高齢者の方は、どのようにして避難所まで行くのかという問題だ。特に独り暮らしの高齢者は、大雨の中、避難することが困難だ。

ところで、「自助・共助・公助」の言葉や意味を知っているだろうか。自助は「家庭が日頃から災害に備えたり、災害時には事前に避難したりするなど、自分自身の身を守ること」だ。例えば、家具などを固定して転倒することを防ぐ、食料や飲料水などの日用品を備蓄しておくことなどだ。共助は、「地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合う」ことだ。主な具体例として、防災訓練が挙げられる。年に2、3回宗像市の小・中学校では防災訓練が行われる。そして正しい避難の方法や自分の身を守るためにはどうすれば良いのかを学ぶ。避難訓練で学んだことを実際に避難しなければならないときに生かせるかどうか、避難訓練への取り組み方によって変わってくる。実際に災害が起きたときのことをイメージして、真剣に取り組んでいる人は災害が起こった際に、適切な判断をすることが出来ると思う。だが、自分の住む町は大丈夫だという考えで避難訓練に対する意識が低い人は、そのような状況に置かれたとき、避難訓練が役に立たない。避難訓練を受ける全ての人が真剣に受けることで、自分の命だけでなく、周りの人の命も救うことができるのではないだろうか。私の家の近所にも高齢者の方が住む家がある。避難するときに困っている高齢者の方がいたら声をかけて、避難訓練のときと同じように冷静な判断で、家族だけでなく、近所の方も助けたい。最後に、公助は、「役場や消防、警察、自衛隊といった公的機関による救助活動や支援物資の提供など、公的機関のこと」だ。

次に考えた対策は、災害時に家族とどこで待ち合わせをするかを話し合うことだ。これを事前に話し合っておくことで、家族が別々の場所にいても、お互いが顔を合わせて無事を確認できるからだ。また、災害時の食料や飲料水などの置き場所も決めておくと思う。場所を決めておくことで、すぐに避難所へ向かうことができ、より早く身の安全を確保することができるだろう。

最後に、近所付き合いをしておくことだ。普段からコミュニケーションを取っているか否かでは、避難時の声のかけやすさに違いがあると思う。

これから私は、この三つのことを普段の生活に取り入れ、災害が起きたときに適切な判断ができるように、日々の訓練に真剣に取り組みたい。また、通学時に近所の方に会ったらあいさつをしたり、ごみ捨てに困っている高齢者の方がいたら進んで手伝ったりして、災害が起きたときに声をかけられるようにしたい。